

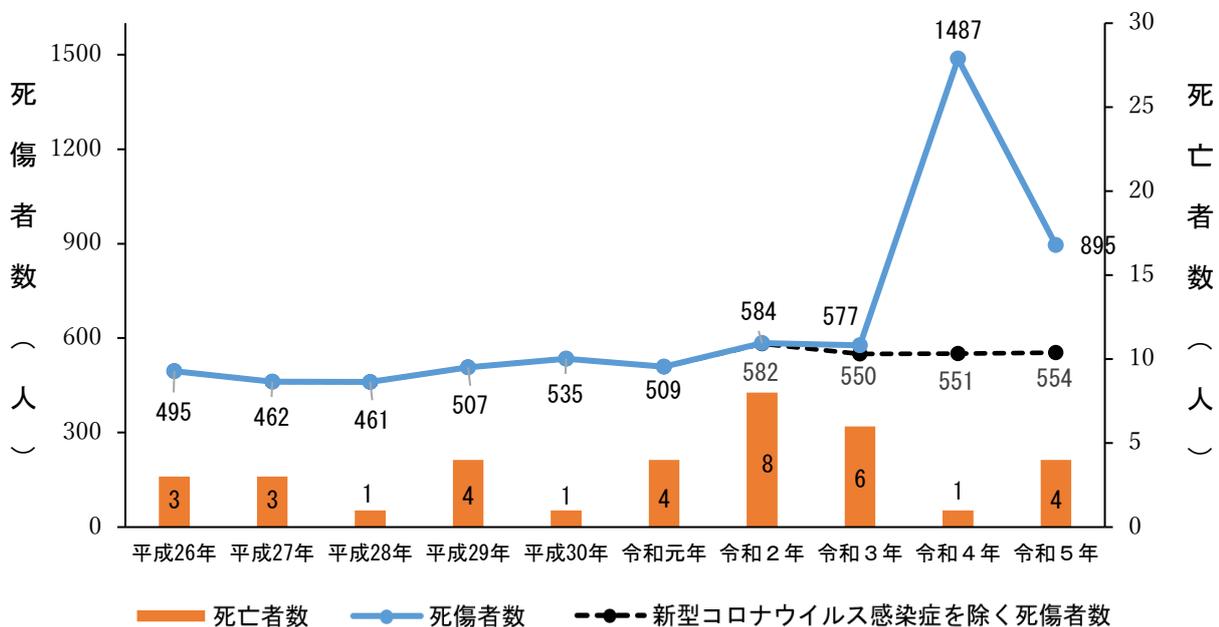
令和 6 年 6 月
鳥取労働局健康安全課

令和 5 年の鳥取県内における労働災害発生状況の概要

1 労働災害の推移

令和 5 年の休業 4 日以上之死傷者数（以下「死傷者数」という。）は 895 人で、前年（令和 4 年）に比べて 592 人の減少（前年比-39.8%）となった。死亡者数は 4 人で、前年の 1 人から 3 人増加した。死傷者数のうち新型コロナウイルス感染症によるものは 341 人で前年より 595 人減少しており、死傷者数が減少した要因は新型コロナウイルス感染症による死傷者数が大幅に減少したためと認められる。

鳥取県内の労働災害の推移



2 死亡災害発生状況

令和 5 年の死亡災害の内訳は次のとおり。

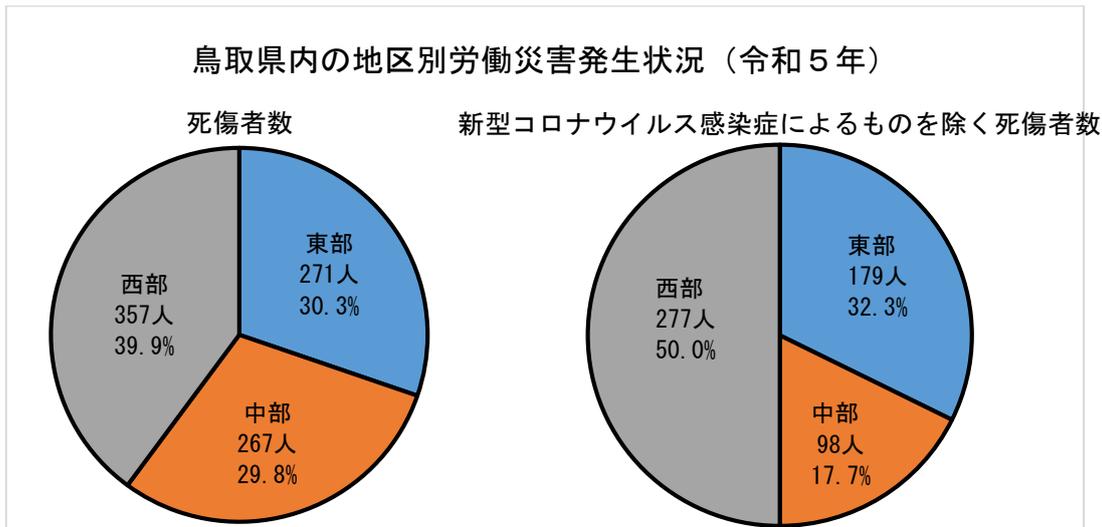
死亡災害一覧（令和 5 年）

| 番号 | 発生月 発生時間帯 | 事故の型 | 災害の概要（業種） |
|----|---------------|------------|---|
| 1 | 2月 11時～12時 | 墜落、転落 | 高さ 1 m の作業台上で重量物を降ろそうとしていたところ、足を踏み外してコンクリート床面に墜落した。（製造業） |
| 2 | 6月 10時～11時 | はさまれ、巻き込まれ | 道路工事中、後退してきた清掃車に接触した。（警備業） |
| 3 | 9月 14時～15時 | 飛来、落下 | 陸揚げされていた廃船の下で、底部の部品を切断していたところ、部品が落下して下敷きとなった。（産業廃棄物処理業） |
| 4 | 11月 8時～9時 | 墜落、転落 | 移動式クレーンで吊り上げたとう乗設備にて伐木等作業を行っていたところ、当該とう乗設備から約 6 m 下の水路に墜落した。（建設業） |

3 地区別の労働災害発生状況

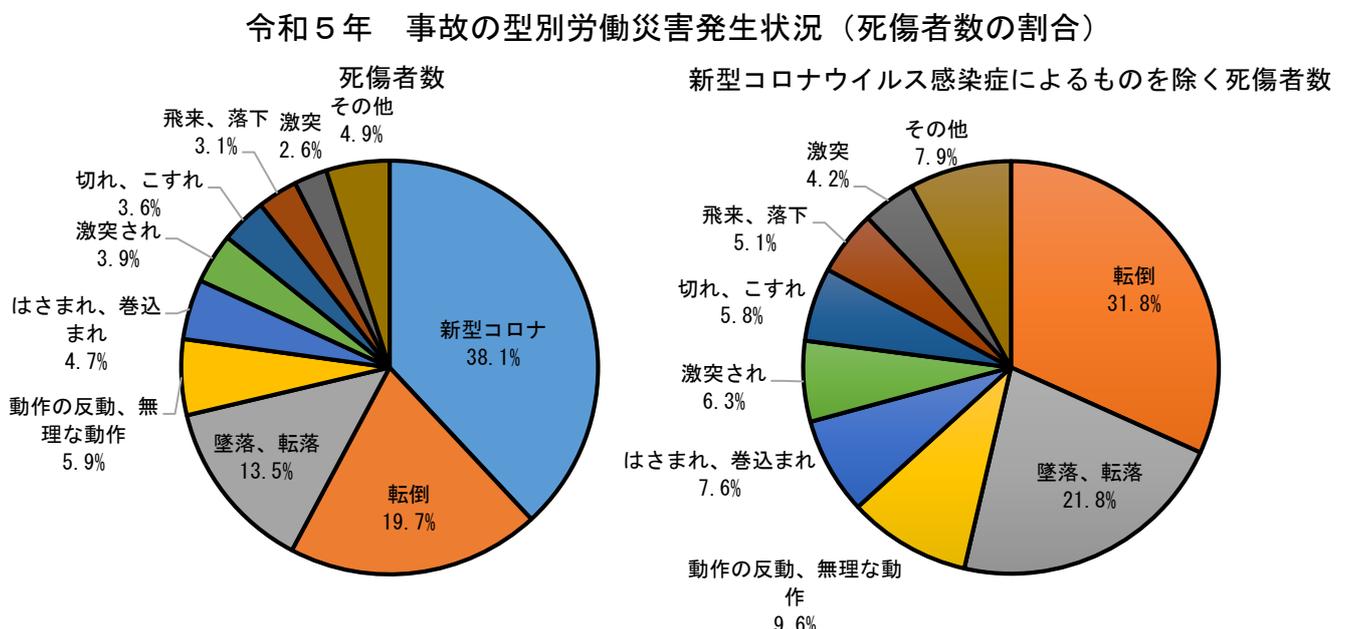
死傷者数を地区別にみると、東部地区は271人で前年より267人減少（前年比-49.6%）、中部地区は267人で前年より9人減少（前年比-3.3%）、西部地区は357人で前年より316人減少（前年比-47.0%）した。いずれの地区も前年よりも減少しており、特に東部と西部が大きく減少している。主因は新型コロナウイルス感染症によるものである。

地区別の発生割合は、西部地区が県内全体の約40%を占める状況にある。また、新型コロナウイルス感染症によるものを除くと県内全体の50%を占める。



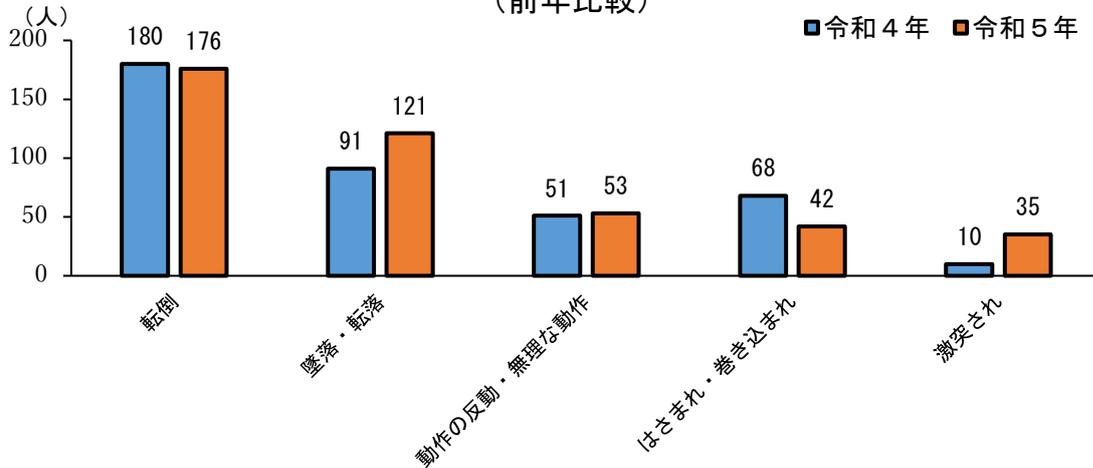
4 事故の型別の労働災害発生状況

死傷者数を事故の型別でみると、新型コロナウイルス感染症によるものが341人（全体の38.1%）であり、次いで「転倒」が176人（全体の19.7%）、「墜落・転落」が121人（全体の13.5%）発生している。新型コロナウイルス感染症によるものを除くと、「転倒」及び「墜落・転落」の2つで全体の半数を超え、53.6%を占める。



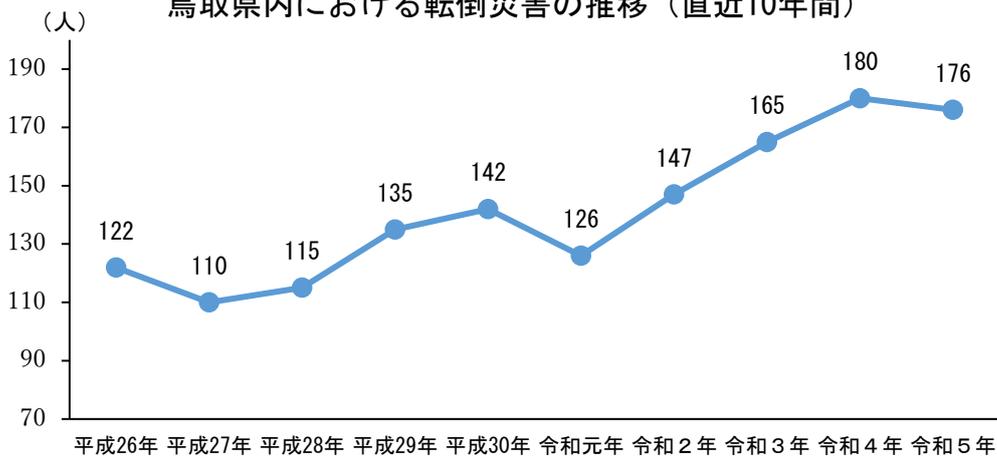
また、事故の型別の上位5件のうち、前年よりも増加したものは、「墜落・転落」が30人、「激突され」が25人、「動作の反動・無理な動作」が2人増加している。

鳥取県内における上位5件の事故の型別労働災害発生状況
(前年比較)



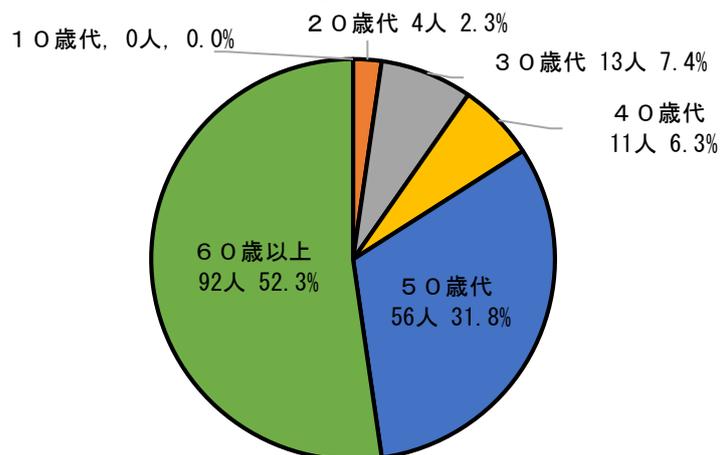
なお、「転倒」災害の発生状況の推移をみると、令和5年は前年より減少したものの、直近10年間は増加傾向にある。

鳥取県内における転倒災害の推移 (直近10年間)



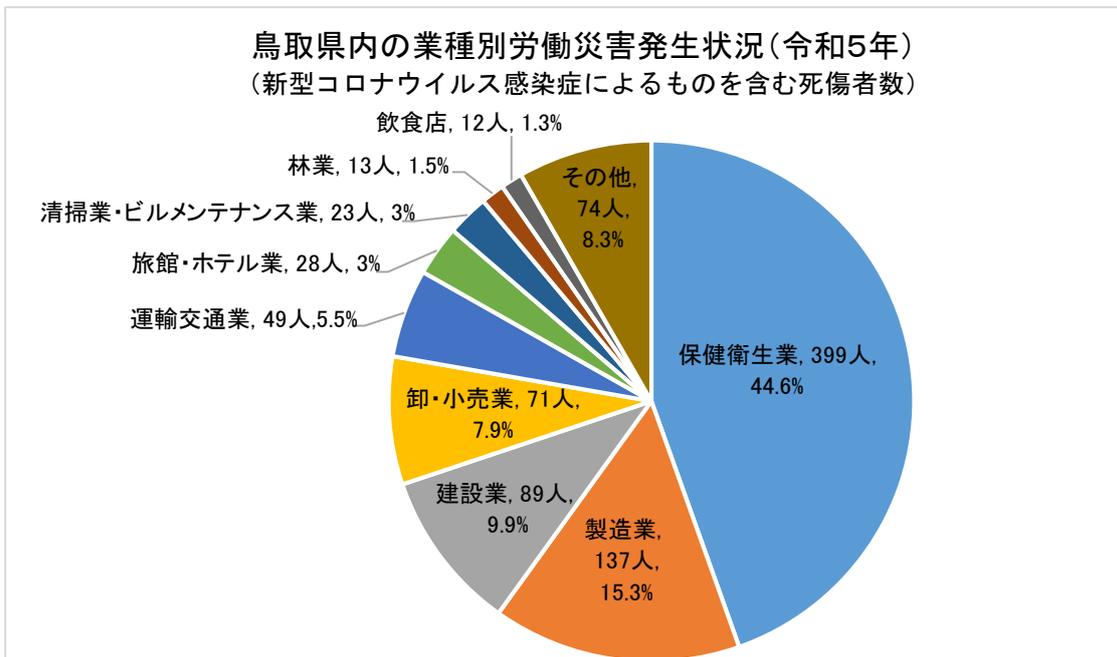
「転倒」災害を年齢別にみると、60歳以上が92人(全体の52.3%)で最も多く、次いで50歳代が56人(全体の31.8%)であり、50歳以上の割合が8割を超える。

鳥取県内における転倒災害の年代別労働災害発生状況
(令和5年)

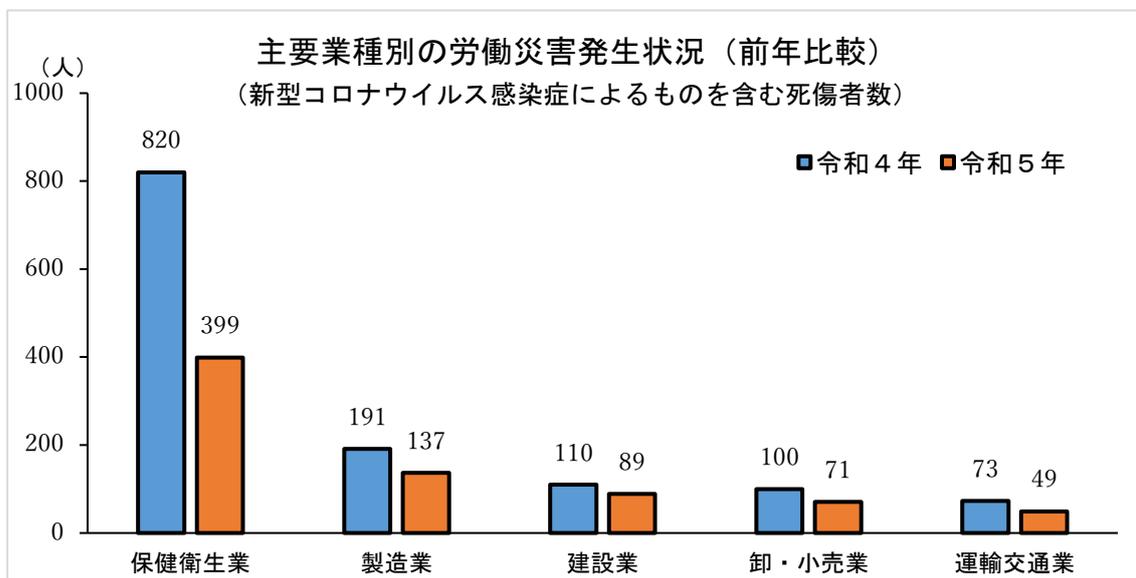


5 業種別の労働災害発生状況

死傷者数を業種別にみると、多い順に、保健衛生業が 399 人（全体の 44.6%）、製造業が 137 人（全体の 15.3%）、建設業が 89 人（全体の 9.9%）となっている。



死傷者数の多い上位 5 業種について前年と比較すると、いずれも減少しているが、新型コロナウイルス感染症による死傷者数の減少が主な要因となる。新型コロナウイルス感染症によるものを除くと、製造業及び建設業において増加した。

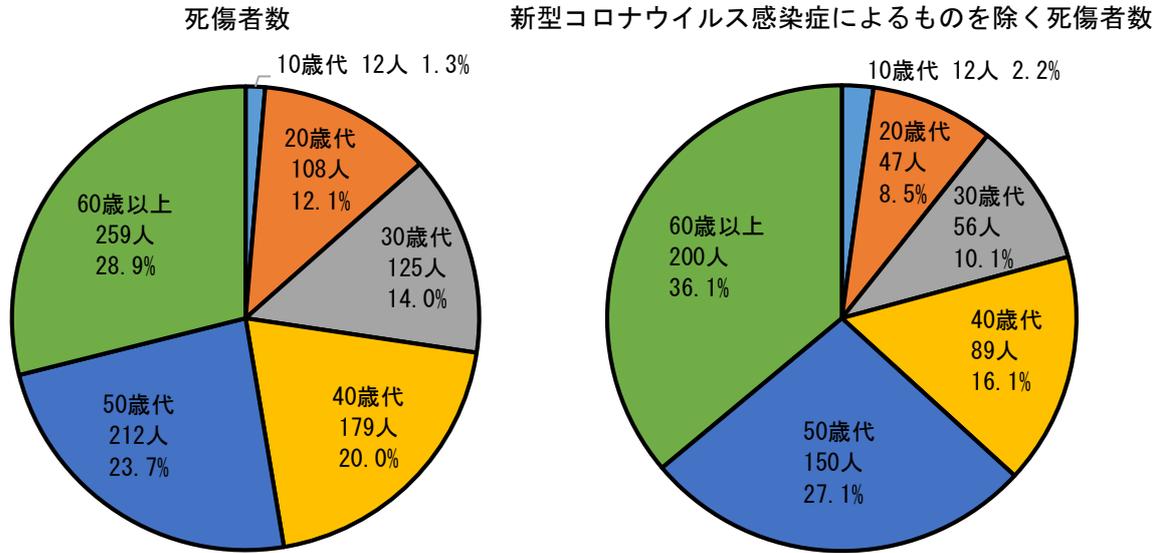


6 年齢別の労働災害発生状況

死傷者数を年代別にみると、60 歳以上が 259 人（全体の 28.9%）と最も多く、次いで 50 歳代が 212 人（全体の 23.7%）、40 歳代が 179 人（全体の 20.0%）となっている。50 歳以上の死傷者数が全体の 52.6%を占める。

新型コロナウイルス感染症によるものを除くと、60 歳以上が 200 人（全体の 36.1%）と最も多く、次いで 50 歳代が 150 人（全体の 27.1%）となり、50 歳以上の割合が全体の 63.2%に達する。

鳥取県内における死傷者の年代別労働災害発生状況（令和5年）



直近10年間の50歳代及び60歳以上の死傷者数の推移をみると、50歳代の死傷者数は横ばい傾向である一方、60歳以上の死傷者数は増加傾向にあり、平成28年以降は50歳代より多くなっている。

直近10年間における鳥取県内の50歳代及び60歳以上の死傷者数の推移 (新型コロナウイルス感染症によるものを除く)

